

# 平成 27 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■ 自主研究 12
主査名	金 利昭 ・ 茨城大学工学部 教授
研究テーマ	理想の移動・空間・活動に関する研究
<b>研究の目的:</b> <p>移動の意味的側面すなわち移動することによる人間の精神的・身体的利点、あるいは交通の社会文化的側面を考えれば、これまでとは異なった交通社会のあり方が描けるはずである。そこで、都市空間や交通システムのあり方を考えていく上で、また交通文化を豊かにしていく上で、「移動」と「空間」と「活動」の三者の関係性の実態とあり方を探ることが重要であると考えた。本研究は、平成 26 年度の研究プロジェクトで実施した「移動することの意味・価値」及び「理想の移動」に関する研究を発展させ、「移動」と「空間」と「活動」の関係性を詳細に探ることであり、具体的な目的は以下3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 国内外の文献を収集し、主要な知見を整理する。</li><li>② 「移動」と「空間」と「活動」との関係性を、「現実」と「理想」の両面において探る。</li><li>③ 近未来技術・社会(ネット社会、オートパイロット)の中で、これからの交通手段と道路空間のあり方を考察する。</li></ol>	
<b>研究の経過(4月～9月):</b> <ol style="list-style-type: none"><li>① 自動運転の動向と課題(自動運転はどこまで行くか、車はどうなるか、人のモビリティはどうなるのか、車・人・社会の関係)を議論した。特に将来の交通の姿として、カーシェアリング依存や「Mobility as a Service(旅行者は出発地から目的地までの移動に必要なサービスをパッケージとして受け取る)」は興味深かった。</li><li>② 国際会議に出席した研究メンバーから Mokhtarian(米国)を中心とした海外の研究動向が紹介され、本年度、Mokhtarian が Transport Reviews に発表したサーベイ論文を読み込むこととした。</li><li>③ 移動制約者に対するグループインタビューを行い、移動に対する意識(移動手段別好き嫌い、移動を増やしたいか減らしたいか、どこでもドアの利用可能性、等)を把握することで、移動の本源的需要を議論した。</li></ol>	
<b>下期へ向けて(課題等):</b> <p>平成 25 年度に実施した WEB 調査データ(3700 サンプル)を用いて、理想の移動・空間・活動分析を進める。</p>	
<b>研究メンバー(敬称略):</b> <p>金利昭(主査・茨城大学) 鹿島茂(中央大学) 谷下雅義(中央大学) 兵藤哲朗(東京海洋大学) 大森宜暁(宇都宮大学) 石田眞二(北海道工業大学) 山田晴利(東京大学) 荻津修(荻津技術士事務所)</p>	